

地理的思考方は地図帳や1枚の写真から

北海道札幌西高等学校 新井田 幸範

1 はじめに

地理学習の楽しみは野外に出かけ自分の目でいろいろな事象を観察調査し確かめてみることにつきるが、実際これは現在の高等学校の教育課程の中では不可能に近い。従ってこの点を解決しようという目的もあって、近年多くの優れた視聴覚機材を利用した学習方法が紹介され、実際取り組まれている学校も多いようだ。

私もあまり得意ではないが、最近インターネットやプロジェクターを利用した授業を年に数回実施している。その中で地形や自然環境などの分野では、ある程度生徒も興味を示し、お互いに理解し楽しみながら授業を展開していると思うが、「その他の分野では？」と尋ねられると自信を持って答えることができないのが実情であり反省点でもある。

また、本校の場合センター試験で地理を必要とする者が、毎年170人前後にのぼるため、どうしても受験中心の授業になりがちである。そのこともあり、最近原点に戻り教科書や地図帳に載っている写真などをプリントし、そこから何が読み取れるかを中心にまとめさせながら発展的に授業を進めている。体験学習とは言えないかもしれないが実例をあげて紹介することにする。

2 1枚の写真からの体験学習

先に述べたように、現実問題としてなかなか野外での体験学習はむずかしい。とくに産業の分野などで実施するとしたら数週間は必要であろう。そこで地図帳や資料集の写真を通して、できる範

囲で架空の体験学習を授業にとり入れることにした。利用する写真としては、次のことに注意をはらった。

教科書や資料集に用いられているわかりやすいシンプルな写真を利用する。写真の中には多くの地理的事象が存在する。この点をみんなで確認しながら進めてみよう。

3 見て感じたことから地理的特徴を探そう

(1) 最初は、目と頭を働かせて！



天然ゴム

例としてゴムの木の写真をここに掲載したが、何はともあれこの写真をじっくり見て読みとって頭の中でいろいろな事象を想像させる。小さな発見、ほんの少しの興味、疑問、何でもよいから気がついたことをメモするようにさせる。この点が大切だと思う！

しかしながら面倒なことに対して生徒は積極的にならないので、なかなか授業では前進しない。

「何に注目するか？ 何に目を向ければよいか？」を事前に具体的に提示する。つまり着目すべき点などを見つけやすくする工夫が必要である。

(2) 基本的なことから実際に調べよう！

たとえば具体的に「この写真の作物は？ 地域は？ その地域の気候は？ 土壌は？ 資本は？」

などと生徒の頭の中で整理しやすい環境をあたえる。そうすれば、わりとすんなり地図帳や資料集を利用して各自積極的に調査（調べ）に入りこめる。そしてこの写真の横に自分で想像し調べた基本的な地理的事象・特色・地域性を記載しておく。最後にどんなことが記載されたかを確認し、その他「何か新しく想像したことがあったか？ また、新しい発見があったか？」など、お互いに生徒間で意見交換することも必要である。

（3）生徒の新しい発見に期待しよう！

次に生徒が調べた事象の中で、写真から新しく読みとれたものを大切に、「何故そのような事柄が発見できたのか？」あたかも現地に行って調査しているかのような雰囲気をつくり出し問いかけ展開していく。

たとえば、この作物は天然ゴムで気候はおそらく熱帯で、土壌は何々で…、というような答えがあり、次に「何のために生産し、何処へ輸出しているのか？」などといった新しい疑問が浮かんでくるだろう。このことが大切であり、ここからが各自で行う体験学習である。

その答えを出すために、資料集や地図帳・統計資料などを利用する。実際、地図帳上で輸出先から輸入先までたどってみて、ちょっとした旅行気分にするのもよいアイデアだと思う。

このような繰り返し、やがて多くの知識として役立ち、また新しい発見がそこからスタートする。幸いなことに、本校の場合は社会科教室や図書室・視聴覚教室などある程度設備にも恵まれインターネットも利用できる、生徒にとっては自らの体験学習を行いやすい環境にある。

このようにたった一つの事象から多くの新しい発見を導き出すことにより架空の体験学習が成り立つのである。ただし、これには時間と適切なアドバイスが必要となり、なかなか難しい点も多い。興味を示さない生徒に必要なのは、周りの生徒と

の連携なので、どのようなきっかけがあれば、生徒同士で話し合い、興味が持てるようになるのか、働きかけてみよう。

4 想像力をいかし次の段階へ！

さて、これまで実施してきた学習をどう発展させるかが最後に残された課題である。

たとえば、天然ゴムは日本では多く輸入している自動車のタイヤに加工されているとする。ここまでくると自動車に興味のある生徒は自動車の会社名、タイヤの会社名、自動車工場のある都市などを積極的に調べ上げる。「輸出する港は？ 何処へ輸出するの？」どんどん地理的事象の範囲を広げ、関連資料を分析したり、地図をはじめとするさまざまな資料を活用し多面的に考え想像していく。

たった1枚の天然ゴムの写真から農業だけでなく他の産業の仕組みまで発展的に想像し学習する。生徒全員がこのようにできるわけではないが、その過程の中に何か興味がわく事象が一つでもあれば私はそれでよいと考えている。

調べることが楽しく、新しい発見があれば次の段階（積極的な学習）に確実に生徒は進んでいくような気がする。そしてこれから大人になって自分で確かめる機会に恵まれたら、本当の意味での体験学習を是非してもらいたい。

5 終わりに

地理学習の楽しみは、難しい活字の中にはない。今も昔もその答えは、たった一冊の地図帳の中にあると思う。

地図帳の中には、すべての体験学習の基礎があり、たった1枚の写真でも多くの要素が詰め込まれている。その基礎・要素を大切に引き出していくことが地理学習の基本である。そして、その中には無限の想像を超える体験学習が存在する。